



毎月19日は  
食育の日

令和7年度 冬休み号

伊佐市立学校給食センター

## 感謝の気持ちをもって食事をしよう

学校給食も家庭での食事自然の恩恵のうに成り立つものであり、多くの人の苦勞や努力によって支えられているものです。今月は「全国学校給食週間」もあります。この機会にあらためて食べ物大切さや食事に関わる人の思いについて考えてみましょう。

## 学校給食について知ろう!

### 学校給食のはじまり

写真・新潟県栄養教諭 佐藤美香先生

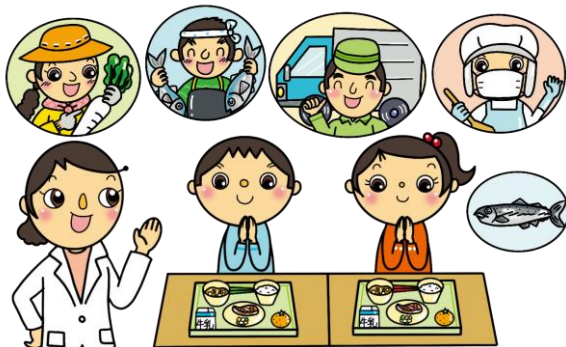


小学校があったお寺の境内には、今は記念碑が建てられています(山形県鶴岡市の大誓寺)。

明治22(1889)年、山形県鶴岡町(現・鶴岡市)の小学校で、家が貧しくてお弁当を持ってこられない子どもたちのために食事を出したのが日本での学校給食のはじまりです。その後、戦争による食料不足で一時中断されてしまったものの、戦後、外国からの援助物資で再開することができました。



### 学校給食の役割



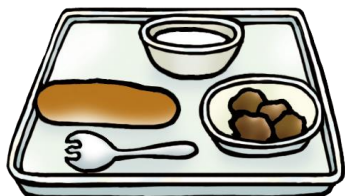
給食が始まった当初は、子どもたちへの栄養補給が主な目的でした。しかし現在は、栄養バランスのとれた食事子どもたちの心身の発達や健康の増進を目指すことはもちろんですが、社会性や協同の精神、自然環境の尊重、勤勞を重んずる態度、食文化や社会のしくみについて学ぶ、教育活動の一環として行われています。

### 学校給食の原風景

## 昭和の給食

現在にいたるまでの給食の移り変わりを紹介します。保護者の方にとっても、懐かしい「思い出の味」があるかもしれません。ぜひご家庭で、好きだった献立や印象深い出来事など、給食の思い出を語り合ってみてください。

### 昭和30年代



パンが主食で、脱脂粉乳をお湯に溶いて作るミルクとおかず一品という献立が多かったようです。くじら肉もよく登場しました。先割れスプーンで食べました。

### 昭和40年代



パンに合わせた洋風メニューがよく出ました。飲み物も牛乳に変わり、学校給食用の個包装チーズも作られ、乳製品が家庭に普及するきっかけにもなりました。

### 昭和50年代



米飯給食が始まりました。カレーライスが食べられるようになり、肉じゃがなどの和食も出るようになって、内容がとても豊かになりました。はしも使われるようになりました。